

## 理解することと、表現すること

次に問題なのは、『読んで取らせると取れるものが、読ませると読めない』ということです。これも実は極めて当たり前のことでして、それは理解力と表現力との差によるものです。

“読む”ということは、実生活では“理解”することを意味していますが、“読ませ”て読む場合の“読む”は、“表現”を意味しています。私たちは、子供がある漢字を“理解”しているかどうかを知るには、“表現”としての“読む”行為を通して知るのが一番手っ取り早いものですから、たいてい読ませています。

その場合、子供が読めば、無論“理解”していることがわかりますが、それは正しく言えば“理解をした上での表現”なのです。本当の“理解”には、“表現”できる場合もあれば、できない場合もあるのです。

だから、『“表現できない(読めない)”から“理解”できていない』とは言えないのです。無論、理解できていないから読めない、ということもありますが、『理解できていても読めない』ことだって大いにあり得ることなのです。その場合、『読んで取らせると取れるが、読ませると読め

ない』ということになるのです。

一般には『漢字は読むためにある』と考えられますが、その“読む”は“理解”であって、“表現”ではありません。つまり、発音できなくても(読めなくても)、その意味が“理解”できれば用は足りるのであって、それが実生活における“読む”行為です。

だから、『読んで取らせると取れる』ならば、“理解”できているわけですから、“読めた”として学習を進めるべきです。そこで足踏みをしている必要はありません。読んで取らせて、子供が(これを)取っている間に、自然と『読ませると読める』ところへと発展していきます。